2024 年 2 月 20 日
薬剤部　薬品情報管理室

持参薬の相互作用に対応した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、持参薬同士に相互作用があり、代替薬に関する情報を提供することで、薬物療法の向上に貢献できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▸手術目的で入院された患者

【持参薬（一部抜粋）】
ボシュリフ錠 100mg　１回３錠　１日１回　朝食後（当院処方）
タケキャブ錠 10mg　１回１錠　１日１回　夕食後（他院処方）

※ボシュリフを処方している診療科と、異なる診療科に入院された。

Ｈさん

ボシュリフとタケキャブに相互作用があったはず。抗悪性腫瘍剤であるボシュリフの有効性が低下するおそれがあるため、入院中の主治医だけでなく、ボシュリフの処方医にも確認した方が良さそうだ。

薬剤師

Ｈさんの持参薬について相談があります。
主治医の先生にもお伝えしたのですが、ボシュリフを内服されており、他病院でタケキャブが処方されているようです。
ボシュリフと酸分泌抑制薬は併用注意となっており、ボシュリフの吸収が低下する可能性があるため、プロトンポンプ阻害剤との併用は可能な限り避ける必要があります。

医師
ボシュリフ処方医

タケキャブが他病院で処方されていたのですね。
情報提供をありがとうございます。ファモチジンとボシュリフは併用することは可能ですか。

タケキャブ同様に併用注意になりますが、ボシュリフのメーカーHP に資料があり、「プロトンポンプ阻害剤との併用はできるだけ避け、H_2 ブロッカーへの代替を検討してください。また、本剤と H_2 ブロッカーとの服用間隔はできるだけあけてください」と記載があります。
服用タイミングをずらせば服用可能です。

それでは、ファモチジンに変更可能か、主治医の先生と相談しておきます。また、タケキャブの処方元の病院にも連絡しておきます。

その後、タケキャブはファモチジンに変更となり、変更による有害事象の発現なく経過した。

持参薬の相互作用、および代替薬に関して処方医に情報提供することで、薬物療法の向上に貢献できた。

参考文献　ボシュリフ錠添付文書、ボシュリフ「胃内 pH に影響を及ぼす薬剤との併用」Phizer Medical information（メーカーHP）